

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月2日(火)

会場:粟屋コミュニティセンター

参加者数:36人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>いつまでも住みたいまちづくりのためには、生活環境の整備が必要。7月の水害で、粟屋は県道がいたるところで浸かった。生活環境の整備を優先させてほしい。江の川の水流、県道沿いの木が根こそぎ倒されていた。木が倒れてなくなったことにより、車を運転する上では見通しがよくなったが、安全面で不安がある。一般地方道三次江津線についても不安がある。県へ伝えてほしい。</p>	<p>・山からの落石や崩壊は、道路管理者の責任は重大である。早期に対応していかなければならないと思っている。危険な個所については当然対応すべき。江の川は国土交通省三次河川国道事務所が河川管理者で、内水排水機場の設置と河川敷の堆積土浚渫等を要望したところである。予算を確保していくと明言されたので進んでいくと思う。1~2年前に旭地区の堤防を整備された。今年度は上流域の青河町片山地区の河川改良事業を行う。昭和47年豪雨災害に匹敵する災害に対する対応が徐々にできていると思う。安心安全のため、県、国土交通省に厳しく要望をしていきたい。</p> <p>・一般地方道三次江津線については、県の災害査定が終わり次第、早急に着手してもらおうよう要求していく。市道は先週から査定に入っている。市道、河川は順次、12月まで査定を行う。生活に影響のある通行止めしているところを優先に行く。数が多いので優先度が高いところから行う。県の工事、砂防事業の中ノ村等では計3基の砂防ダムを進めている。</p>	
<p>最近市役所へ行くと、大変サービスがいい。親切に案内してくれる。</p>		
<p>大雨時、上村は水路を石が流れ詰まり、道路に水が溢れる。県の道路工事の際、昭和47年豪雨災害の時に困ったので、当時と同じ対応をしてはいけないと注意したが、県は、勾配がないから下りをつけなければ、と言われ工事を進めた。結果、大雨が降ると道路を横断するように水が出る。私の倉庫が近くにあるが、水で浸かる。畑も浸かる。畑の先の田んぼも稲が倒れた。道路に水が溢れ出る状態になるような工事を、県がしている。昭和47年豪雨災害の教訓を活かしていない工事をされており困っている。</p>	<p>県へ伝え、現地も確認する。</p>	
<p>4月1日から障害者の法定雇用率は、民間2.2%、自治体2.5%に引き上げられているが、国の各省庁では算定方法があいまいであり、手帳の交付者だけでなく、健康不良の人も加算している実態である。三次市でも法定雇用率を検証されたと思うが、いかがか。</p>	<p>市役所については、2.5%が法定雇用率である。実際に障害者手帳を持っているか確認し、雇用率を出しており、本市では基準をクリアしている。ただし、調査方法が変わったところもあるため、精査中である。確認ができ次第、個別にお知らせしたい。</p>	<p>【回答】 10月30日(火)にご本人に説明済み(総務課)</p>
<p>三江線代替バスについて、途中で停車するところがなく不便である。CCプラザ等にも停車すれば、利用者も増えると思う。CCプラザの正面玄関にスペースがあるので、乗降できるのではないか。</p>	<p>7月の災害でバスがまだ通れないところもありご迷惑をおかけしている。国道54号沿いにバス停を設置するには、交通量が多く、道路管理者と警察と協議が必要である。プラザの前など、要望を聞きながら、検討に時間をいただきたい。国道54号に出ると三次駅まで降車がないことについては、国道54号は交通量が多いためフリー乗降できるようになっていないが、今後の課題としたい。代替バスの他、相乗りタクシー制度もある。この制度は、バス停からの距離が関係するため、地域は限定されるが、タクシー代の助成を行うものなのでご利用いただきたい。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月2日(火)

会場:栗屋コミュニティセンター

参加者数:36人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三江線代替バスは、作木線を除いて、国道54号へ出たら途中で停車しない。三次駅までに行くまでに、CCプラザ前で止まってほしい。岩脇コミュニティ近くで止まってほしい。近所の人に乘せてもらっている状況である。作木線・川の駅三次線の国道375号沿いには、立派な待ち合いができています。寒い日に雨の中バス停に出たが、雨風をしのげず、いつくるかわからないバスを待っており、高齢者は利用するのが大変である。三次から栗屋へ帰るのは待つ時間がないが、三次方面へでかけるのは、不便である。</p>	<p>丸大食品前に県の用地があるので、許可を得て待合所を作らせてもらうよう予算をつけ、今年度中に作る。全体的に場所が狭いので、地域の皆さんのご意見をいただきながら進めたい。</p>	
<p>三江線跡地利用について、立ち入り禁止の札が立っており、草がたくさん生えている。せめて栗屋の駅くらい掃除したいと思ったが、立ち入り禁止のためできない。元気である間、掃除したり、花を植えたり、何かしたい。ここに三江線の栗屋駅、長谷駅があったという碑か何かを作って後世へ伝えてほしい。</p>	<p>旧三江線鉄道資産検討委員会を5月に設置し、跡地の活用の是非については現在議論しているところである。跡地の管理はどの地域からも声があがっている。市としても所有者であるJRにしっかり管理するよう要望している。現在、委員会で議論して提案をとりまとめているところである。これからもJRには要望を伝えていきたい。駅のあった跡地への記念碑等の整備についてであるが、JRから資産の扱いについては、基本的に鉄橋・駅などは撤去すると聞いている。レールや枕木は現段階では残すとのことである。駅舎跡地への碑の設置については、JRとの協議が必要である。</p>	
<p>馬池谷にガードレールをはずせばバス停を設置できる場所があるので検討してほしい。長谷駅についても、広い場所があるのでそこを利用してはどうか。バスに乗ってみて、長い時間待つのは大変だと分かった。座って待つところがあれば、利用しようと思える。</p>	<p>・現地を見たが、再度確認する。 ・それぞれの路線の乗車状況が新聞に出ていた。毎日運行しているが、利用者が少ない実態がある。代替バスは3年周期で検討するとも聞いた。ぜひバスを利用してほしい。JRや国が負担を出さない路線になっては大変である。ぜひ乗っていただき残していきたい。</p>	
<p>バスを利用したい気持ちがある。老人会で作木の伊賀和志神楽団を観た。バスを利用して、神楽、カヌー公園、くまみ湯等を観光に結びつけてはどうか。三江線廃線前は、健康維持するため、三江線に乗り、途中の駅で降り、次の駅まで歩くというイベントを実施していた。今後は三江線沿いの紅葉が見頃を迎えるので、今度はバスを利用して同様の健康維持と観光のイベントを実施してはどうか。また、日本妖怪博物館には神楽を舞うスペースはあるのか。</p>	<p>日常的なバス利用だけでなく、何らかの仕掛けを来年度に向けて考えたい。先日三次市で開催した忠臣蔵サミットでは、県外の来場者が神楽に感動された。神楽振興のため、神楽団連絡協議会も立ち上げ、安価に神楽演舞してもらえるような制度も作った。もっと出演の機会を増やしていこうと思う。日本妖怪博物館については、外に舞台を作りたいと思っている。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日: 10月2日(火)

会 場: 栗屋コミュニティセンター

参加者数: 36人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>高齢化が進んでいるため、若者があふれるまちなししたい。働く場としての工業団地、企業誘致をされているが、働く人の確保が重要になってくる。働く人がいないので企業が撤退することもあると聞く。また、三次の賃金が安いと聞く。例えば、Uターンしてきても、30代で手取りが15万程度と聞いた。三次は物価も家賃も高い。賃金の底上げをするような手立てがあれば良い。</p>	<p>人の確保が難しくなっている。これは広島県全体に言えることである。有効求人倍率は、リーマンショック時に0.38倍まで落ち込み、今は1.96倍まで上がっている。あらゆる企業・福祉関係事業所で人の確保が難しくなっている。8月には広島市で、三次市雇用労働対策協議会主催の就職相談会を開いた。正社員での雇用が進んでおり、賃金は上がっていると思う。PRが必要であると考え。地域での取組では、三和町では「帰ろうコール」を住民自治組織、支所、企業が一緒になって就職相談会を開催された。仕事の場がない、というイメージが今まであったが、今は違う。(株)サンエーについては、一度苦しい局面にあったが、今は160人を超える採用をされており、さらに雇用したい思いも持たれている。</p>	
<p>生活道の市道改良について、亀谷大平線を早く取り付けてほしい。高齢者がだんだんと地域から出て行っている。</p>	<p>市道改良の要望だが、市道は、3,590ほどの路線をかかえており、今やらなければならないことをどう選択するか、苦慮しているところである。</p>	